

# 山麓探偵団通信

11月号

十一月二日現在、山中湖畔、旭日丘と親水公園付近で、見事な紅葉の見ごろをむかえています。

十月二十五日(木)の探偵団の往復道路沿い、富士吉田看護学校付近の紅葉とシラカバのコントラストが素晴らしく、夕暮れには足元に数々の灯りがともって、「こころ静かに紅葉を楽しむ」コンセプトがうたわれていました。

どうか、この時期の木々の美しさをお見逃しのないように、北麓各地の紅葉狩りをおすすめします。

まあ、世の中を明るくしてくれば本望なのですが、こればかりは赤や黄の力だけでは、どうにもなりません。でも、少なくともひとりひとりの何かを、ほんのちよつと照らしてくれることを願ってやみません。

ところで、十月の探偵団は、中の茶屋から富士吉田口登山遊歩道をへて、沢づたいに馬返しまで、岩盤をよじ登ったり、道なき道を横切ったり、スリル満点の道を案内していただきました。普通のコースからいきなりわき道にそれる、伊藤団長の変速ギヤが、今回もぴかっと光った一日でした。

二十七日の土曜日は、あいにくの台風で中止になりました。

## 参加者の感想

富士の懐に入り、すべてを新鮮な目で見て感じた一日。なんと山の幸の豊富なことでしょうか。

自然を味わうという視点では、やまぶどう、あけび、ほこり茸と、山麓はまさに、秋の収穫祭です。



でも森の動物達の大切な食料なので、乱獲はやめましょうという団長の言葉がありました。

皆さんのお昼の味噌汁の中に、少しだけほこり茸を入れました。一人では、何気なくふと通りすぎてしまいそうな場所で「あそこにサルナシの実が」という団長のすばらしい観察力。

参加された方々もこれに負けじと色々なものを発見して、これぞ

探偵団という印象でした。

今回の探偵団で興味深かったのは、それは植物の面白い名前です。次の三つの名前の由来を、帰宅してから調べてみました。

朝鮮五味子(ちようせんごみし)は、酸味、辛味、甘味、塩味、苦味の五味から名づけられたそうですし、夜糞峰榛(よぐそみねばり)といういかにも気の毒な名をもつ樹木は、枝を折ると、たしかに匂いがするが、サロメチールのような匂いで、けつして悪い匂いではないということでした。

掃溜菊(はきだめぎく)は、世田谷の掃き溜めで見つかり、牧野富太郎博士の命名によるものだからです。

馬返しでは、雪虫が舞っていました。これが舞うと一ヶ月以内に雪が降るといいます。

そして、探偵団の三日後、二十八日の朝、富士山は五合目まで雪をかぶりました。(K・M)



【写真提供：伊藤団長】

## 十一月の探偵団活動

☆ 小さい秋を布に写そう ☆

十一月十七日(土)二十一日(木) 団長は、ガラリエ・オムさんの木村修、奈保子さんです。

野菊かサルトリイバラをステンシル(型抜き染め)で布に写し、手描きで仕上げます。

あなただけのオリジナルTシャツをつくりませんか! テーブルセンターをご希望の方は、布地を300円でお分けできます。

集合は、午前九時半に森の喫茶室あみんです。木村修さんの、アメリカでのワイルドアート展のお話を写真つきでうかがったあと、アトリエに移動し、木村奈保子さんにステンシルのご指導をしていただきます。午後二時ころまでには、出来上がる予定です。

参加費 絵の具および材料費、指導料込みで2300円

もちもの Tシャツ希望の方は白か薄い色の無地Tシャツ一枚・昼食、申し込みは、それぞれ二日前まで、探偵団事務局にお電話か、メールにてお申し込みください。

発行 山麓探偵団 事務局

電話 〇五五五・六五・七〇二三